

令和6年5月31日



学校だより 6月号

横浜市立瀬谷さくら小学校
校長 場家 誠

学校教育目標 「自分大すき 友だち大すき このまち大すき さくらの子」

- (知) 困難なことにもあきらめずに挑戦する子に育てます。
- (徳) 物事の善悪をきちんと判断し、辛抱と我慢のできる子に育てます。
- (体) 自分や人の命を大切にする子に育てます。
- (公) 小さなことでも、社会に役立つための行動ができる子に育てます。
- (開) 様々な人とのコミュニケーションを通じて、社会への視野を広げる子に育てます。

「チョークのはなし」

副校長 阪元 秀一

4月に着任しました、副校長の阪元秀一です。

副校長になって、記念すべき最初の学校が瀬谷さくら小学校です。右も左もわからず、右往左往あたふたアップアップしていると、みなさん（先生達はもちろん、地域の方も、PTAの皆さんも、そして子ども達も）とてもあたたかく教えてくださって、少しずつですが、学校にも、仕事にも、慣れてきました。ただ、「副校長先生!」と呼ばれることは、まだまだ背中あたりがむずがゆく、慣れるには、もうしばらくかかりそうです。

そして、今回、この「学校だより」のいわゆる巻頭言というものを任されてしまいました。もちろん初めてです。人生初の巻頭言です。さて、何を書こうかと考えた時、自分のこれまでの経験や思いが伝わるようなものにできたらいいなと考えました。これまで、初任校が養護学校（現在の特別支援学校）で、それから個別支援級の担任ばかりをしてきた私が、副校長になってよいものか、果たしてやれるのかと考えていましたし、学校の先生ならではのことが書ければと思いました。稚拙な文ですが、少し、お付き合いください。

私は文房具売り場に行くと、なぜか、わくわくします。勉強が好きかどうかは別です、、、たぶん。

現在、文房具マニアという言葉も生まれるほど、ちょっとしたブームになっています。5000円以上するシャープペンが飛ぶように売れているそうです。文房具メーカーもいろいろあります。コ〇ヨ、さく〇、ペ〇〇る、ト〇ボ鉛筆、、、。IT化の波に負けず、それぞれが工夫を凝らして、企業努力をしています。

さて、圧倒的に先生ならではの文房具にチョークがあります。日本のチョークはその70%を「日本理化学工業」という川崎の会社で作っています。昨年の24時間テレビでドラマ化され、ご存知の方もいるかもしれませんが。何と、この会社は全従業員の70%を超える方が知的障害の方です。製造ラインでいうと100%です。障害の程度も特性も様々です。だれにでも安心してできる工夫がなされ、そのうえで、その人の特性に合わせた特別な工夫がきめ細かくなされています。厳しいJIS規格に耐えうるチョークを、会社独自のさらに厳しい基準で、黙々と、作っています。厳しさの中にも、工場はやさしさにあふれています。「だれにでもできる」をやる中で、その道のプロが生まれ、ほめられ、認められ、必要とされて、生き生きと働いています。離職率はほぼ0%です。（『虹色のチョーク』小松成美著より）

この瀬谷さくら小学校を中心としたコミュニティも、大人（先生・地域の方々・保護者）も子どもも、だれもがその人なりに参画できるように工夫され、生き生きと活躍できるといいと思っています。その立場立場でほめられ、認められ、必要とされて、かがやく「瀬谷さくら」。そう考えると、私にもできることはありそうです。

6月は4日（火）に授業参観が行われます。黒板の上を軽やかに踊るチョーク、それを操る先生、それをキラキラしたまなざしで見つめる子どもたち。それぞれの活躍を、ぜひ生で味わってください。今のうちから、どうやってほめようか、考えておいてもいいですね。「賞賛に勝るご褒美なし」です。